

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2772401010		
法人名	社会福祉法人 聖徳園		
事業所名	グループホーム敬愛		
所在地	大阪府枚方市香里ヶ丘8丁目1番地		
自己評価作成日	平成 30年 9月 1日	評価結果市町村受理日	平成 30年 11月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jiryoosyoCd=2772401010-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 30年 10月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の自立度を考慮し、日々の生活が単調にならないよう工夫をしている。四季折々の行事も企画し、喜ばれるサービスの提供を心掛けている。ご家族来園時には家族とのコミュニケーションツールとして行事や外出で撮った写真をお見せしながらその時のご様子などをお伝えするようにしている。今年度初回の運営推進会議でグループホームでの1日の生活の流れ、職員の動きを時系列に記載し、詳細に説明することでご家族の安心感やご理解を深めることが出来た。決定すべき内容については職員みんなで話し合い、納得したうえで決定し同じ方向性を持って支援できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

半世紀を超える長い間、地域の福祉ニーズの多岐に応え社会貢献事業を行う社会福祉法人が、介護保険制度開始後間もない2012年8月に、大阪府内で3番目となる「認知症高齢者グループホーム」を設立し、地域の事業所を牽引して19年目を迎えます。法人理念を「ヒューマニズムにたって高度な専門性をもって人の為につくします」とし、ISO9001(国際標準化機構)認証取得によりサービスの質の基本姿勢と継続的改善を図ってきた母体法人が、ISO9001の認証期間終了に伴い、法人独自の品質管理システムを構築し、その評価の判定基準を設けることでさらなる向上に努めています。利用者の入れ替わりと管理者、職員の法人内異動による交代がよい相乗効果をもたらし、1ユニット7人ならではの仲の良い穏やかな雰囲気はそのままに、新たに明るく元気なホームの雰囲気加わりました。法人の整った強力なバックアップによる運営と、管理者、職員は“こころにより添う”ケアのため、今年度の年間品質目標を「利用者の誕生日に特別なサービスをする」と定め、新しい試みで利用者個別の楽しみと生きがいを感じられるケアを実践して、良質な生活のための支援をしている安心できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務で必ず立ち寄る事務所に掲示するとともに、月に一度開催する職員会議では改めて各自確認するために唱和を行い意識づけている。又、年間目標として設定している品質目標については理念に基づいて作成を行っている。	理念は事務所への掲示、職員手帳、職員会議のレジュメに記載して唱和するなど、いつでも確認と共有が図れる工夫ができています。法人理念に沿ったグループホームとしての年間品質目標を、年明けに職員と定めています。今年度は「利用者の誕生月に特別なサービスを提供する」として、具体的に利用者が望む買い物や食事、外出を職員がマンツーマンで対応するために、利用者の気持ちにより添った意向確認により、望むことを実現するための計画を立て、家族の了承を得て実施しています。実施後振り返りを行い、詳細に記録に残して次回につなげることで、良質なケアの実践をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2 か月に 1 度の運営推進会議には地域代表の方にも参加してもらい、又近隣の小学校の行事(夏祭り・防災訓練・文化祭)にもご招待を受け、積極的に参加している。特に文化祭では利用者の作成された作品を展示していただきいつも高い評価を得ている。又、同法人の特養で月に一度開催されるオレンジカフェには必ず数名が参加し地域の方との交流を深めている。	職員は地域密着型サービスの意義を理解し、地域に目を向け、地域とのつながりを大切にしています。校区や地域の小学校の行事、「夏祭り」「防災訓練」「文化祭」に参加する他、保育所の運動会、同法人特養のオレンジカフェに参加して楽しんでいます。週に2回スーパーへ調理の為の買い物に利用者とは出かけ、購入した商品を配達してもらうサービスを利用して、地域交流の一環となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域スーパー等と一緒に買い物に出掛け、コミュニケーションを通じて地域住民の理解を深め、オレンジカフェ参加の際にはティータイムの準備など普段行っている台所作業等を実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2 か月間の利用者のご様子を伝え、その間に実践した行事の説明、写真を回覧する等取り組みの状況を細かく説明し、一人一人のご意見を伺い、報告書としてまとめ当日欠席された方には後日来園の際に配布している。年度初めの4月にホームでの生活の状況をタイムリーに報告させていただき大変喜んでもらった。	運営推進会議は、開催規程に沿って2か月に1回、年6回定期的に開催しています。参加メンバーは地域包括支援センター職員、地域の代表、利用者家族等です。ホームの行事に合わせて開催することもあり、多くの家族が参加できています。ホームから利用者の状況、行事の報告と予定、その他ホームの取り組み状況について写真等を回覧して詳しく説明し、話し合いをしています。評価や意見は運営に繋げています。5月の会議で、利用者の日常生活を起床から就床まで詳しく説明したところ、多くの家族から、「利用者の活動や生活ぶりが良く理解でき安心した」と予想以上の評価があり、職員もやりがいを感じています。議事録は詳細に記録し、参加のできなかったメンバーにも届けています。職員も全員が見てサービスに活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	枚方市介護相談員派遣事業の介護相談員さんの受け入れを月に1度行い現状を説明している。また「枚方市高齢者等徘徊 SOS ネットワーク」への利用者登録、捜査協力も行っている。	運営推進会議に地域包括センター職員が参加しており、情報交換や何かあれば相談をしています。介護支援専門員は、利用者の支援手続等で市の担当と連携しています。市には外部評価の結果や事故があれば都度報告しています。市の集団指導には管理者が参加しています。市の介護相談員が月1回ホームに来訪し、利用者と面談しています。市の高齢者等徘徊 SOS ネットワークに参加し、協力をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の方針とし、身体拘束をしない方針を明確にしている(職員手帳に明記)。 意識を高めるために年に1度人権、身体拘束等の研修を行っている。	管理者は身体拘束をしないケアの大切さを良く理解し、職員の指導をしています。マニュアルを整備し、職員の研修も計画的に実施しています。職員は研修レポートを提出し、管理者は研修結果報告書で、成果や評価を確認する等職員の教育徹底に努めています。ホーム前の道路は交通量が多く、安全面から、現在玄関は施錠している状況ですが、鍵の開錠番号を大きな文字で表示しています。外出しそうな利用者には付き添うなどして、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えるように努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マスコミに取り上げられた内容については職員間で共有し、年に1度研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性に応じて内容を確認し、理解を深めるようにしている。又、状況によってはご家族に提案することもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には時間をかけて面談し、説明を行い、納得されたうえで署名、捺印をしてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご家族のご意見を伺う時間を設けているが、なかなか本音は聞けないので年度末にアンケート配布し、無記名で提出してもらい、後日他の家族にも内容をまとめたものを配布している。その中で改善すべき内容、要望があった時は職員間で話し合い検討している。	ホームでの日々の暮らしの様子を「敬愛えがお通信」に掲載して毎月発行し、家族には来訪時に渡しています。運営推進会議や家族の来訪時は意向を聞くことができる貴重な機会になっています。また、無記名アンケートからも家族の意見を得ています。集約した意見、要望は職員会議で検討し、運営に反映しています。「ご意見箱」の設置をしていますが入る事はほとんどなく、来訪時に直接意見を得ています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では各職員の意見を確認し、又、当日欠席者については前もって意見、提案の有無の確認を行っている。また「業務改善提案書」を目の届くところに置き、いつでも記載できるようにしている。	トップダウンによる運営ではなく、職員全員から意見を出してもらうようにしています。職員間の連絡、意見はパソコンを利用して、全員に回覧して、職員毎に確認後に色付けするなどして、職員が個別にもれなく情報を共有できる工夫をしています。研修の参加希望については個別に対応しています。職員意見により、ホームの行事を増やし、庭を活用して畑を作る提案などが反映されました。また職員は働き方等に関して法人内異動の希望を要望することができ、最近異動になった事例があります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成するにあたり、10 日までに希望休を聞き、希望に添えるよう勤務表の作成に取り組んでいる。年 2 回（6 月・12 月）人事考課を行った後フィードバック面接を行い、各職員の思いを確認している。今年度よりリーダーの役職(ポスト)を設け、よりやりがいを感じてもらえるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修において各自担当を決め自身のモチベーションアップに繋げ、勤続年数、必要性に応じて外部研修にも参加を促している。今年度は実践者研修にも参加してもらった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年度初めの枚方市グループホーム協議会の集会へ参加、大阪府グループホーム協議会からの連絡内容の把握、研修案内については必要に応じて参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活状況をしっかり把握し、不安要素を取り除けるようにアセスメントを行い、生活の基盤を設定できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の契約の際には普段の様子を詳細に伺い、こちらの方針等、十分に説明しご理解を得たうえで契約の締結を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意見を伺い、アセスメントを行い、暫定のプランを立てたうえでご家族にも目を通してもらい、納得してもらったうえでサービスの提供を始めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月に 1 度のカンファレンスにおいては現状を振り返り、新たな提案も含めより利用者に添った介護が行えるよう示唆し、ご家族来園の際にはこちらから現状報告と、ご家族からの意見も聞くようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	4月の花見、縁日、敬老会、年末のパーティー等ご家族にも参加を促し、利用者と同じ時間を共有していただき、ともに楽しんでもらえる場を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた友人の美容室に何か月に一度は行く利用者がいる。	友人の美容室に入居前から継続して行っている利用者がいます。以前の職場の同僚や知人、家族の来訪も多く、いつまでも関係が途切れないように、職員も支援しています。週に2回買い物に出かけるスーパーや薬局、100円均一ショップの店員とも馴染みの関係ができています。同法人特養の喫茶でも顔なじみになっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中でトラブル等が生じることが無いよう、常に配慮し、時には気分転換に席替えを行う等考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ法人内の特養に移られた利用者については会う機会も多いのでその都度声掛けを行い、近況を確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画書更新の際にはご本人・家族の意見を確認したうえで少しでも希望に添えるケアが出来るよう努めている。	今年度はグループホームの品質目標に掲げた「利用者の誕生月に特別なサービスを提供する」の実施に向けた取り組みもあり、職員は日々の関わりの中や会話の中から具体的に利用者の意向の把握に努めて、既に数人の利用者が誕生月に希望することを実現できました。思いの表出が難しくなった時には、利用者の家族に聞き取る他、アセスメントの生活歴やカンファレンスの中から情報を得ています。職員はできるだけ気持ちにより添えるように笑顔での対応を心がけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談でご家族から詳しく情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々健康状態、特に排便状況などの引継ぎを丹念に行い便薬の量などの調整や健康管理を行っている。 朝：夜勤者→早出・日勤 夕：日勤→夜勤		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1 か月に 1 度のカンファレンス、3 か月に 1 度のモニタリングを職員、ケアマネで行い対応の振り返り、改善に努めている。	介護計画書は法人理事長が考案したオリジナル様式を活用し、カンファレンス・モニタリングにも連動しています。計画作成担当者は、毎月介護職員、利用者家族等の参加によりカンファレンスを開催しており、介護計画に沿った内容で検討しています。また、3か月に1度利用者を担当している職員を中心にモニタリングを行い、介護計画の項目内容に合わせて評価を行っています。カンファレンス、モニタリングで集約した情報を基に概ね6か月毎に見直しを行い、更新した計画書は変更箇所が一目瞭然となるように網掛けをして、介護職員がケアに反映しやすい工夫をしています。家族には来訪時に説明して同意を得ています。計画作成担当者は、利用者が行事や同法人特養の喫茶などに出かける際に同行して、本人が本当に望むことを引き出して、プランに反映できるよう関わりを持つ機会にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほのぼののソフトを使用し、職員全員が統一した記録が行えるように徹底している。又、出勤時には必ず日誌の確認、捺印することを義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて医療関係の相談、情報の提供を行うことでご家族に安心感を提供している。サービスの提供中半で状況が変わった際には速やかにカンファレンスを行い計画書の変更を報告、確認している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	7名中6名の方が訪問診療を利用されている。又、2か月に1度の運営推進会議には地域からも出席してもらい、ホームの現状を報告している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療については法人の訪問看護師に相談することも含め、ご家族の意見、希望を優先的に配慮している 受診についてはご本人、ご家族の意見を尊重し助言も行い、希望される医療の提供を行っている。	かかりつけ医については利用者・家族の意向に添い、利用者毎の選択によって、6名の入居者に対して4名の医師による往診があり、利用者1名は通院の継続をしています。その他、2か月に1度歯科医の口腔状態の確認と随時の皮膚科の往診があります。同法人の訪問看護師による健康チェックが週に1回あり安心に繋がっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に 1 度訪問看護が来園するのでその際には利用者の状況を詳しく報告し、指示を受けたこと、助言いただいたことは全職員に周知徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には情報提供を行い、病院側のケースワーカーとも密な連絡を取り合いながら退院についてはご家族の意向も考慮し、早期退院、受け入れに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	る実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在浴室の設備に機械浴がないため基本、湯船に自力又は一部介助で入れなくなった時点でご家族には特養などへの移行も打診している。終末ケアに向けての援助も行い、又ご相談に応じさせていただいているが、医療依存度が高くなってきた場合は厳しい状況も説明している。又、重度化に伴い常時の見守りが必要になり、支援の内容に無理が生じてきた場合にはご家族との話し合いを設けている。	これまでに数例の看取りの経験があります。重度化・終末期の対応については入居時に「終末期の看取り等について(事前確認書)」で本人・家族の意向確認と同意を得ていますが、内容の変更は可能となっています。ホームでは現在の設備の浴室での入浴が難しくなった時に特養への入所を考える等、利用者・家族の思いを第一に検討していくこととしています。ホームから特養に入所した元利用者家族から、特養の状況等を運営推進会議で情報提供してもらい、家族の不安を和らげるように取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のシュミレーション等研修も含めて行っている。又年に一度の心肺蘇生の実技研修には順番に出席してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回全体の消防訓練を行い、又近隣の小学校で開催される防災訓練にも毎年参加している。 今年の地震発生後には避難経路や手順について消防署の職員に来園してもらい、指導を受け全職員に周知徹底している。	年2回の消防訓練を実施しています。事前に訓練の届け出を行い水消火器の貸し出しを得て訓練に使用するなど、消防署との関係づくりもしており、地震後には消防署の指導を得ています。ホームとしては夜間想定に重点を置いて訓練を実施しています。非常時に備え、使用する携帯電話に連絡先等の縮小版を付ける他、緊急時連絡カード・利用者毎のお薬手帳・保険証のコピーなどを持ち出し用としてまとめています。備蓄も水、食料、カセットコンロ等を賞味期限を確認しながら準備しています。	
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・プライバシー保護、人権擁護の研修は毎年行い、重要性を各職員で振り返り周知徹底を行っている。	プライバシーの研修は職員ミーティングと同時に年1回実施しており、欠席の職員には別途資料等で習熟してもらい、職員全員に研修レポートを提出してもらっています。職員は利用者との関わりでは、目上の人を敬うことを基本としており、利用者の尊厳とプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	サービス計画書作成時には意思表示できる方については希望、意見の確認を行い、日々の生活においては毎朝オリエンテーションを行う中でそれぞれの様子を観察し、コミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の生活歴を把握することで趣味や好みを日々の生活に取り入れ、生活の満足度を高められるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて、近隣の美容室に外出し、カットから顔そりをされる方や、また馴染の美容室にいく方などおられる中、他数名の方は訪問理容を利用されている。又、入浴日には顔そりも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月曜日の昼、金曜日の夕はホームで調理を行い、利用者の嗜好を考慮した献立を立てている。調理の補助は毎日野菜を刻む等一緒に行ってもらい調理が無理な方についてはテーブルを拭いてもらうなど一緒に作業してもらう機会を設けている。	日常的な食事は、同法人特養の管理栄養士が献立した調理済みの副食を搬入し、主食、汁物はホームで調理しています。週に2回、月曜日の昼食と金曜日の夕食は利用者の希望を取り入れ相談して、特養の献立にないような食事のメニュー(例:ぎょうざ・手巻き寿司・鍋物・かき揚げ等)になるよう考え、買い物、調理補助など利用者に来ることを一緒に楽しみながら行っています。 日曜日と入浴の無い日は手作りおやつを作ります。庭の畑で収穫した野菜も調理して季節感を味わっています。職員は利用者と会話を楽しみ、さりげなく食事のサポートをしながら一緒に食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については各利用者の要望、状態に応じ、量や内容に考慮している。水分については食事の際のお茶の摂取以外に朝の10時・午後の3時には水分補給を促し、外の水まきや花の水やりなど戸外の作業後には必ず水分補給をしている。又、入浴後にはコップ1杯のアクエリアスを提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回食後に、義歯も外して頂き、歯磨きを行っている。デンタルリンス入りのカップでうがいを促し、(飲まれる方にはお水で)、口腔内の清潔維持に努めている。ご自分で出来る方については声掛けを行っている。就寝前には義歯をお預かりし洗浄を行い明朝に返却している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間の誘導も含め排泄はトイレで行ってもらい、状況を見ながら定時誘導を行っている。排泄の回数を詳細に記録することで、一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促している。	排泄チェック表で、夜間も含め一日に少なくとも定時8回の排泄の確認を行っています。表には色分けをして排泄状況を記録し、排泄パターンの把握に努めています。布パンツ、紙パンツ、パッドと利用者の状況に合わせて選択し、できるだけトイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人排便状況を詳細にチェックし毎朝状況の引継ぎを行い、出勤者で便薬の調整を行っている。又、排便を促す飲み物やヨーグルトの飲用など調整を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回の実施であるが状況に応じて入浴を実施することもある。入浴についてはご本人の要望に添い体調を考慮しながらゆっくり入ってもらっている。	入浴は週に3回(火・木・土の午後)としており、全員入浴しています。利用者の状態に応じて、見守り・介助の支援をしています。職員は利用者が入浴を楽しめる様に、花びら湯(バラ)・ゆず湯・菖蒲湯等の季節風呂を用意します。利用者が女性ばかりのホームであることから、庭に咲いたバラを浮かべた花びら湯が人気です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に戻っていただくのは自由であり、特に制限はしていないが皆さんがそろって、リビングで過ごされる。夜間の巡回は個人の睡眠時間を考慮し、間隔を決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の依頼から調整、投薬は全て職員で行う為、しっかりと確認しながら行っている。服薬セットの確認も重複して行っている。又、便薬については日々状況の引継ぎを細目に行い量の調整などを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のレベルに合わせ調理補助、洗濯物たたみ等の役割を担ってもらい、余暇活動として趣味などを活用し、刺し子、編み物、塗り絵等で過ごしてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の食事の受け取りには短距離ではあるが気分転換にドライブとしてホームまで一緒に出掛け、年に何度かは心身の状況に応じ、ご家族にも確認しながら遠出などの機会を設けている。又、気候や天気に応じて全員で喫茶に出かけたり、散歩に出かけたりしている。	食事等の買い物や、同法人特養への副菜の受け取りに、利用者が2人ずつ交代で職員と出かけます。日常的には近くの公園に散歩に出かけています。同法人特養の行事に参加したり、喫茶に行ってお茶とケーキを楽しむこともあります。水族館見学やホームセンターへの買い物をはじめ、今年度の目標である誕生月の支援として、食事や買い物等に出かけて利用者の気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に合わせ、また利用者の理解度に合わせて支援させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	必要に応じて対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内壁面には利用者と共に作成した季節感を感じてもらえるような装飾を施し、室内の温度はそれぞれの希望に合わせて調整を行っている。	玄関に名前が良く分かり、使い易い低めの下駄箱が備わっています。季節の花がたくさん飾られています。リビングダイニングは、天井が高く、大きなガラス窓により、明るく開放感があります。テーブルと椅子、ソファが有り、利用者はそれぞれお気に入りの場所で、思い思いに過ごしています。大きな干支の作品、利用者と職員の合作貼り絵作品、季節を表すハロウィーンの飾り物など、どれも楽しい雰囲気を感じさせます。廊下には、行事等の思い出の写真が見やすく綺麗に編集され飾られています。利用者にとって楽しい通り道です。家族も見ることができます。リビングダイニングの前には桜の木がある芝生の中庭があり、季節毎にバーベキュー等が楽しめます。トイレの表示等は大きく分かり易くしています。全体に清掃が行き届き、清潔感があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中ほとんどの方がリビングで過ごされるが自由に行動できるよう配慮している。席の配置も考慮し、快適に過ごしてもらえるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の設えについては広さの事もあり、大きな家具の持ち込みは制限しているが利用者の思い入れのある品や写真の飾りつけ等自由に行ってもらっている。	居室にはベッドと大きめのチェスト、クローゼット、洗面台、エアコン、カーテンが備えられています。管理者と職員は、あまり狭くならないことを考えながら、利用者や家族と相談して、居心地よく過ごせるよう、利用者本位に工夫しています。入居前に使っていた机、椅子、電気スタンド、テレビ、時計を持ち込み、今までの生活環境を整えている居室もあります。清掃が行き届き、清潔感があり、全体としてはスッキリとした感じですが。温湿度は利用者の希望や状況に合わせて職員が調整しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を促す為に、レベルに応じて必要最低限の提示等を行い、安全かつ快適に過ごしてもらえるよう配慮している。		